

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 1 日現在

機関番号：32616  
 研究種目：研究活動スタート支援  
 研究期間：2010～2011  
 課題番号：22860084  
 研究課題名（和文） インド洋西海域の歴史的港市におけるインド人の居住空間形成に関する研究  
 研究課題名（英文） Research on the Spatial Formation of Indian Settlements and Dwellings of the Port Cities in the Western Indian Ocean Coast  
 研究代表者  
 岡村 知明（OKAMURA TOMOAKI）  
 国士舘大学・イラク古代文化研究所・共同研究員  
 研究者番号：70583516

研究成果の概要（和文）：

本研究は、インド洋西海域沿岸のインド北西部沿岸、南アラビア・東アフリカ沿岸の歴史的港市を拠点とした 18 世紀後半から 20 世紀前半のインド人商人による海上交易ネットワークに着目し、その居住空間形成の手法を主に臨地調査によって明らかにすることを目的とした。調査では、海域沿岸の各地に形成されたグジャラート商人の特徴的な居住地を選定し、街区構成および居住空間構成の空間的特質、それらの移動と定着の実態を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：

This research investigated the spatial formation of Indian merchants' settlements and dwellings within the port cities of the Western Indian Ocean coast, like Gujarat, South Arabia, and East Africa. The study conducted field survey in Surat, Rander, Cambay, Salalah, Muscat and other cities. The research found out that above cities shared same dwelling pattern formed under the trade networks by Gujarati merchants during from the late 18th to the early 20th century.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	1,490,000	447,000	1,937,000
2011 年度	1,390,000	417,000	1,807,000
年度			
年度			
年度			
総計	2,880,000	864,000	3,744,000

研究分野：建築学

科研費の分科・細目：都市計画・建築計画

キーワード：インド洋西海域、インド、グジャラート、都市空間構成、街区空間構成、居住空間構成、コミュニティ

1. 研究開始当初の背景

(1) 応募者は、インドにおけるグジャラート州カッチ地方の歴史的港市について、マンドヴィ、バドレシュワル、ムンドラを事例に、その都市空間、街区空間、居住空間の構成を明らかにし、港市の

形成過程と空間構成の特質、街区空間のパターンとその変容、街区内のカースト（宗教、出自、生業などを共にする氏族集団）の構成、および都市住居の空間構成とその変容を考察することで、インドの陸域の都市に対する海域世界

の都市の空間構成原理を実証的に解明する調査を継続し、その成果をまとめた（2010年滋賀県立大学学位請求論文）。

- (2) その後、カッチ地方から、さらにインド洋西海域港市へと現地調査を進める過程で、多様な文化が重層し、一つの港市に焦点を合わせるだけでは明らかにできないネットワーク上の結節点としての港市の居住文化や建築文化が存在し続けていることが次第に明らかになってきた。そして、インド洋交易における港市同士の相互扶助によって移動、定着したものは、交易品や人だけではなく、地域固有の集住形式も存在していたのではないかと、という問題を明らかにしようと考えた。

従来までのインド洋、南アジアにおける既往の都市研究は以下のようにまとめられる。

- 1) インド洋の歴史に関しては、I.ウォーラー・ステインの世界システム論に代表されるように、西欧諸国の進出により、インド洋海域の秩序が大きく変化し、歴史的ネットワーク構造が崩壊したという見方が先行する。都市計画史の分野では、アジアにおける西欧諸国による都市建設とその変容・土着化を明らかにする研究が展開された。
- 2) 西アジア、南アジアにおける内陸部の歴史都市に関する研究蓄積は多い。日本でも「イスラームの都市性」、「イスラーム地域研究」などのプロジェクトにおいて、学際的な議論がなされた。建築・都市計画学においても、イスラーム世界やヒンドゥー世界の都市空間、住居形態に関する実証的な研究蓄積がある。
- 3) アジアの海域諸国に展開した移民による居住地形成については、東南アジアの諸都市に移住した華僑による建築形式（ショップハウスなど）とその都市形成手法に関する研究がある。
- 4) 南アジアの住宅研究については、A.D.キングによるバンガロー建築、プラマーによるハヴェリ（大規模邸宅）の研究や、国内でも飯塚キヨによる英領時代の住居形式に関する論考があり、これまで地域固有の多様な建築形式に関する研究が積み重ねられてきた。しかし、そうした地域固有の居住文化の形成をインド洋西海域という歴史的地理的枠組みにおける、海域を隔てた都市間交流という観点から検証する研究は数少ない。

上記のような経緯と学術的背景を鑑み、従来、インド洋海域という広範囲の港市に

関して、西欧諸国の進出と植民地化という視点ではなく、海域内の交易、宗教、民族等のネットワークを視点として都市・建築の空間的関連性を明らかにする。西欧諸国到来以降も持続してきた伝統的な交易ネットワークに基づく在地の勢力による港市の形成と変容を実証的に明らかにすることは、従来までのインド洋の既往研究にとって重要であるとともに、その深化を図る上でも重要と考え、本応募研究を申請するに至った。

## 2. 研究の目的

本研究は、18世紀後半～20世紀初頭を主な検討対象時期とし、アフリカ東岸、アラビア半島沿岸部の港市に形成された、1.インド人居住区、2.インド沿岸部の港市における集住形式、3.建築スタイルとの比較を通じ、街区空間の構成、居住空間の構成とその類型、建築技術の導入を視点とし、西欧諸国進出以降の具体的なインド人商人による都市形成手法を明らかにすることを目的とする。

本研究では、これまでの調査成果より、近代にインド洋西海域内で具体的な居住地形成を行ったことが判明しているインド・グジャラート地方出身のヴァニア Vania 商人（ヒンドゥー教徒）、コジャ Khoja 商人、ボーホラー Bohra 商人（イスラーム教徒）の交易ネットワークに着目し、その拠点となった港市を主な研究対象地とする。具体的には、インド北西沿岸のカッチ地方、キャンベイ、スーラト、ランデル、オマーン沿岸のマスカト、サララ、東アフリカ沿岸のタンザニアのザンジバル旧市街、ケニアのラム旧市街とする。

時代的には18世紀後半～現代を中心的な検討対象時期とする。これは、港市間でグジャラート商人を通じ密接な繋がりがあった点に加え、各港市には西欧諸国以降、在地の勢力によって形成された当時の都市構造が良く保持されている点とその選定理由である。

## 3. 研究の方法

本研究は、基本的に臨地調査を主体とする。臨地において都市地図および文献資料の収集を行う。18世紀後半～20世紀初頭を主な検討対象時期とし、インド洋西海域の歴史的港市を拠点としたインド人商人による居住空間の形成手法を明らかにするために、以下の3つの手順を踏まえ、分析・考察を行う。

- 1) 各港市におけるインド人商人の移住、定住の歴史的経緯の解明(一次史料、二次資料文献等による)
- 2) 都市・建築調査(都市施設配置、街区空間の構成、カースト・職業集団の分布、

- 建築や住居の空間構成)の実施
- 3) 建築・住居形式および建築部材などの諸要素の移動と定着の実態(建築空間の名称、空間構成、建築材料、装飾要素)

臨地調査の具体的内容は以下の通りである。

- A) 都市施設分布調査および悉皆的コミュニティ調査：旧市街地の住戸区画が描き込まれている大縮尺の詳細地図を入手、作成し、公共建築、街路名称、街区名称、各住戸のサブ・コミュニティを地図上にプロットすることで都市の空間構造を把握する。
- B) 集住形態に関する調査：市街地において、宗教やコミュニティに根差した歴史的街区を選択し、公共建築を含む住居群の平面採取を行う。また、街区での聞き取り調査を行い、街区の歴史的変容をとらえ、宗教、出自、コミュニティによって異なる街区レベルでの空間構造と住まい方を明らかにする。
- C) 各港市で鍵となる重要建造物の建築実測調査：19世紀以前の建設と考えられるインド的な建築スタイルを持つ建造物を選定し、立面図、断面図、細部意匠図の作成等、詳細な建築調査を行う。

以上を通じて、インド人商人の居住地形成および建築形式、諸要素の移動と定着過程を解明し、インド洋交易においてインド人商人がつないだ18世紀後半から20世紀初頭の居住文化の広がり的一端を明らかにする(図1)。

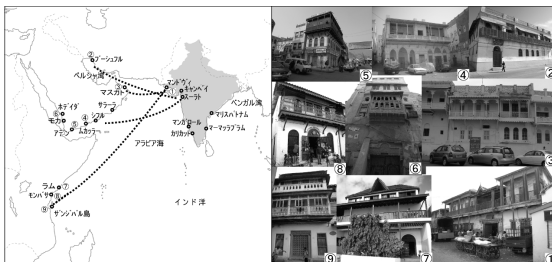


図1 インド洋西海域の港市におけるインド人商人の建築スタイルの分布

#### 4. 研究成果

本研究を通じて得られた主要な成果は以下の通りである。

1. 19世紀後半から20世紀前半の居住空間形成：カッチ地方から多くのヴァニア商人、コジャー商人、ボーホラー商人が移住したザンジバルでは、20世紀前半の都市詳細調査が記された諸文献・古地図を収集し、現状の都市施設、バーザールの位置といった現状の都市構成調査との比較

の視点から分析・考察を行った。20世紀前半のザンジバル旧市街では、既に宗教・出自・職能といったジャーティの住み分けに基づく街区形成が進行していたことが明らかとなった。19世紀初頭に成立し、スワヒリ沿岸の港市としてイスラームを受容した都市でありながら、その都市形成にはジャーティという極めてインド固有の社会構造が内在し、現代まで継続してきたと考えられる。

2. 海域を移動したグジャラート商人の建築形式の源流：近世から近代にかけてインド洋西海域へ移住したグジャラート商人の本拠地であるキャンベイ、スーラト、ランデルを対象に旧市街の施設分布、建築形式・建築様式に関する調査を実施した。調査により、インド人商人の邸宅建築では大きく2系統の住宅形式が存在することが明らかとなった。一つ目は大規模中庭型住居(ハヴェリ Haveli)、二つ目は町屋型住居(ガラ Gala)である。前者はインド本土に根付いた形式で富裕層の壮麗な屋敷建築であるが、後者は、19世紀後半の東アフリカ沿岸においてグジャラート商人が建設した事務所兼邸宅建築と形式的に類似するもので、海域沿岸を移動した居住様式の祖形となった可能性が指摘できる。
3. 町屋型住居の成立と基本的空間構成：ラム、ザンジバルに現存するインド系の住宅形式の出自を明らかにするために、前年度のキャンベイでの住宅調査を踏まえ、インド北西岸各地にあるボーホラー商人の居住区に着目し、シッドプール、カッパドワンジ、ダホル、スーラト、ランデルにて町家型住居の現存状況とその空間的特質に関するジェネラル・サーヴェイを実施した。比較的多くの町家型住宅が現存しているランデル、スーラト

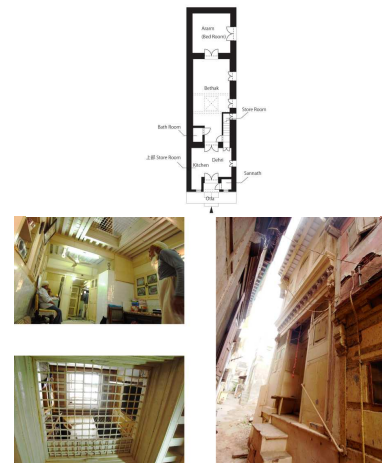


図2 ボーホラー商人の町屋型住宅、キャンベイ

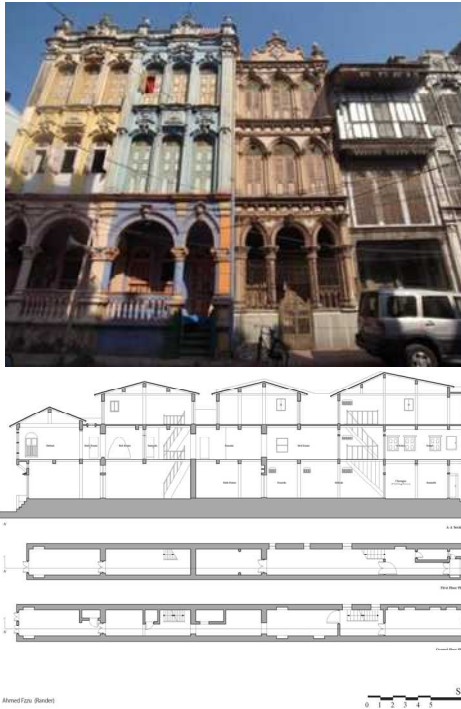


図 3、ボーホラー商人の町屋型住居、ランデル



01\_Yahya Fakhur Aldin House (Bohra House01) (1920~1930)

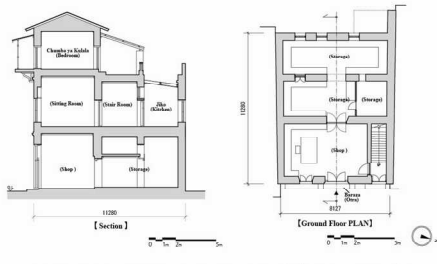


図 4、ボーホラー商人の町屋型住居、ラム旧市街

では、市街地全域を網羅する都市詳細測量地図(縮尺1/400)を入手し、典型例と考えられる住居数棟について実測調査を行った。特にランデルに数多く残存する町屋型住居に建材として使われるチーク材は、20世紀初頭にミャンマーのヤンゴンから運搬されたものとされ、スーラトやキャンベイでもそれらの部材が使用されていることが分かった。

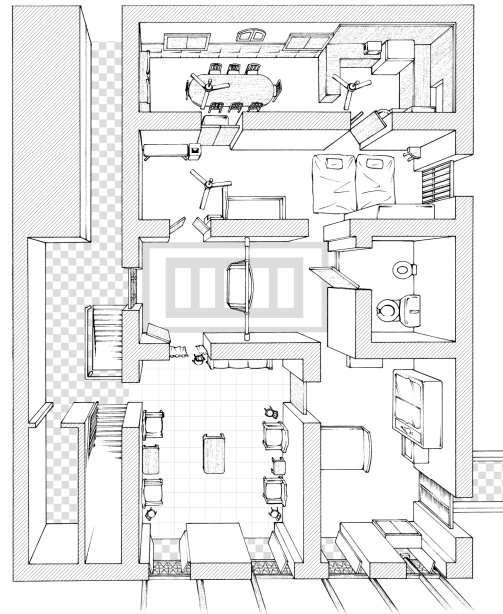


図 5. カッチ地方ムンドラ出身のヴァニア商人(パティア Bhatia)の事務所建築(ペディ Pedhi)と現代の住まい方、ザンジバル

- アラビア南沿岸部およびオマーン沿岸部の港市への建築部材の移動：オマーンのマスカットではスルタン・カーブース大学および文化遺産省において都市・建築関連の文献収集を行ったほか、オマーン南岸のサララ、ミルバート、内陸地方のイブラ、ムダイリブでは建築の形式、部材、装飾、構造などに関する悉皆的な調査を行った。調査により、インド的な建築的要素(扉の様式、室内基壇など)が19世紀のスワヒリ沿岸の港市を介して、オマーン沿岸へ移動し、沿岸地域固

有の住宅形式を構成していることが明らかとなった。以上の一連の調査成果より、近代のインド洋海域においてグジャラート地方を建築部材の一大加工地とする建築生産システムに基づいた居住文化の移動・定着の様相が見えつつある。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 0 件)

[学会発表] (計 5 件)

- 1) 岡村 知明、「インド・カティアワール地方における中世の都市構造に関する考察」、『日本オリエント学会第 53 回大会講演・研究発表集』、2011 年 11 月 20 日
- 2) 岡村 知明、中田 翔太、山根 周「インド洋海域世界における港市の形成と変容に関する研究 その 5—キャンベイ(インド、グジャラート)における街区空間の構成—」『日本建築学会大会(関東)学術講演梗概集 E-2 分冊』、pp.23-24 年 8 月
- 3) 中田 翔太、岡村 知明、山根 周「インド洋海域世界における港市の形成と変容に関する研究 その 6—キャンベイ(インド、グジャラート)における伝統的住居の空間構成とその類型—」『日本建築学会大会(関東)学術講演梗概集 E-2 分冊』、pp.25-26, 2011 年 8 月
- 4) Tomoaki Okamura and Shu Yamane, Spatial Formation of the Port Cities of Kutch Region, India, the 8th International Symposium on Architectural Interchanges in Asia (ISAIA), Kitakyushu, 2010.11.11
- 5) 岡村 知明「カッチ地方の港市のサヴカーズとその住まい方について」『第 17 回ヘレニズム～イスラーム考古学研究』、ヘレニズム～イスラーム考古学研究、pp.117-130、2010 年 12 月

[図書] (計 3 件)

- 1) 岡村 知明「インド西部地震後の都市空間におけるカーズト・コミュニティの変容—カッチ地方の港市の住み分けを中心に—」『第 6, 7 回全球都市全史研究会報告書』、pp.43-54、総合地球環境学研究所・メガ都市プロジェクト、2012.3
- 2) 岡村 知明「西南アジアにおける印僑の建築様式の伝播・普及に関する調査研究」、

『アジアの建築風土と日本の貢献—アジアを学ぶ・アジアから学ぶ—』、pp.89-94、日本建築学会建築歴史・意匠委員会、2011

- 3) Tomoaki Okamura, Shu Yamane, "Reports on the Architectural Heritage of Bhadreshwar, Mundra and Mandvi—Studies on the Port Cities of Kutch, Gujarat", pp.36-198, Project Gujarat, 2011.4

[産業財産権]

○出願状況 (計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況 (計◇件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

岡村 知明 (OKAMURA TOMOAKI)

国士舘大学・イラク古代文化研究所

共同研究員

研究者番号：70583516

(2) 研究分担者

( )

研究者番号：

(3) 連携研究者

( )

研究者番号：